

# 紅ミュージアム 通信

## 神様、仏様…! 江戸の 願かけ模様

[かわら版]  
紅ミュージアム年間スケジュール  
講座のご案内

「東都名所年中行事 四月日本橋初かつほ」・初代広重 画・  
東京都立中央図書館特別文庫室所蔵  
橋の欄干の飾り「擬宝珠(ぎぼし)」に荒縄をくくって願かけをした。



## 神様、仏様…! 江戸の願かけ模様

それでは願かけ参りと  
いさましようか

江戸時代前期、改暦とい  
う大事業を成し遂げた碁  
打ちにして天文学者、渋川  
春海の生涯を描いた時代  
小説『天地明察』(沖方丁  
著・角川書店)。本書に、次  
のような会話が出てくる。

「もつと近場に御利益のあ  
る名所は幾らでもありま  
すがね(中略)

「御利益はもう十分だ。白  
粉も塩もやつたし、番茶も  
やつた」

これは、春海と駕籠かき  
との間で交わされたもの  
である。その日、春海は夜  
明けとともに動き出し、駕  
籠をつかまえ、宮益坂の金  
王八幡宮(現渋谷区)へ、と  
ある絵馬を見に向かおう  
としていた。

春海は碁をもつて御城  
に仕える家元・安井家の  
長男として京都四条に生  
まれ、自身もまた御城碁の  
棋士として出仕していた。  
御城碁を務める棋士は、

毎年秋から冬の間に、江戸に滞在し、御前で棋譜を上覧する。本書によれば、その間の春海の住居は江戸城西の丸の内桜田門外広場の前、会津藩上屋敷（現千代田区皇居外苑）とされている。

さて、登城日であったこの日、春海は登城の刻限に間に合うよう五ツ半午前九時頃）までに戻らなければならなかった。そのため早朝から動き出したわけだが、春海のように定期的

に江戸に滞在する者や江戸勤番武士(参勤交代で江戸に詰める武士)が、その余暇に江戸の名所を回ることがは珍しいことではなかった。ただ、彼らが一樣に観光三昧の日々を送り、

名所・名物を楽しんでいたというのには必ずしも正しくはない。役職・階級によつては、非番の日を除けばほとんど自由時間のない者もあり、そうした者は主のお使いについてに近

場の名所に立ち寄るくらいがせいぜいであった。遠出ができた日など江戸詰めの長い年月の中でわずかに数日しかなかったという実態も指摘されている。その上、春海のように御城へ出仕する者であれば、さらに城門の開閉に行動の制約を受けた。それゆえ、府内観光案内に長けた駕籠かきは、時間のない中わざわざ宮益坂まで行かなくとも、近場にも名所はたくさんあると勧めたのだ。

ここで注目したいのが、駕籠かきの言う「御利益のある名所」と、春海の「白粉も塩もやったし、番茶もやった」という応えだ。作中でも説明されているが、この白粉・塩・番茶は、それぞれ八丁堀のお化粧地蔵、江戸北辺の西新井大師の塩地蔵、向島の弘福寺にある「咳除け爺婆」と呼ばれた石像へのお供え物だ。三箇所ともご利益にあやかりた

い人々がこぞつて訪れた願かけの名所で、ちょっとしたパワースポットであった。

除け(火難・水難・盗難

江門には  
流行神がいつぱい

江戸時代ほど人々の信仰生活が多様性を見せる時期もないだろう。仏教・神道とは別枠の、民間信仰の類が次々と生み出されていった。信仰の対象は、地蔵や閻魔・鬼王・奪衣婆・懸衣翁・浄行菩薩といった寺院境内の持仏であつたり、稲荷に七福神、護符や守り札、時には橋の欄干など建造物の一部であつたりと、実に雑多で多彩だ。なかには、元を辿れば噂話にすぎなかった事象がいつしか熱狂的な信仰対象へと転じていった事例もある。これら対象を指して「流行神」といい、その名のとおり流行り廃りを繰り返した。流行神の霊験は、①治病、②災難

など)、③子安(安産祈願)、④その他諸願に大別される。  
願かけスポット  
紹介します

流行神への信仰がいつそう顕著になるのは江戸時代後期〜末期である。錦絵や名所図会などの案内書には、その地の霊験がよく記されている。また、それとは別に、霊験あらたかなスポットをまとめた『願懸重宝記』なるものが出版された。文化十一年(一八一四)に江戸のご利益情報をまとめた『江戸神仏願懸重宝記初篇』、それに遅れること二年、大坂周辺の情報を収載した『神社仏閣願懸重宝記初篇』が出版される。どちらも初篇とあり、当初はこれに続く二篇が企画されていたようだが、あいにく版行されたか否かは不明である。

願かけ・頭痛編  
永代橋西詰めの高尾稲荷社は、頭部に関する病や悩みに効験があつた。祠の内に小さな櫛が一枚納められており、朝夕詣でた際にそれを借り、「高尾大明神」と心の中で祈りながら櫛を髪に撫で付けると、頭痛や頭瘡が平癒した。ちなみに薄髪に悩む人にも効果があつたという。平癒の後は、櫛を一枚奉納した。

また、京橋の欄干の擬宝珠に荒縄をくくり、頭痛平癒の願かけも行われた。前述した通り、橋が信仰対象となることはよくあり、京橋のほか日本橋、鮫ヶ橋(四谷)、筭橋(麻布)なども、頭痛または小児の百日咳治癒に霊験があると説かれた。願解き(祈願成就した後のお礼

参りのこと）には青竹の筒に茶を入れて、そこに掛けたという。

### 願かけ・歯痛編

歯痛は非常に辛い。まさに苦しい時の神頼みである。かつて江戸上水の水源地であった赤坂の溜池の堤には、古木の榎があった。『江戸名所図会』に「この堤より麻布谷町の方へ下る坂」を榎坂と呼んだとあるのは、そうした所以である。榎坂は歯痛の願かけの名所として知られ、榎の根本で「白山権現」と念じながら歯痛が治まるよう祈り、治癒の後は楊枝を榎の根に供えたという。このほか西久保土器町の善長寺に祀られた「おさんの方」も歯の神として名高く、やはり治癒すれば楊枝を納めた。歯痛に関する願かけの供物は、楊枝や箸のように飲食に関するもの、歯を連想させるものが定番であった。

### 願かけ・眼病編

眼病に効くとしてよく知られていたのは、市谷八幡社の境内に祀られていた地主神の茶の樹稲荷だ。目を患う者は、七日間茶を断ち祈願すれば、病が平癒すると言われていた。この稲荷の由来は『江戸名所花暦』に詳しい。その昔、稲荷大神の御使いであった白狐が、誤って目を茶の木で負傷してしまい、それ以来崇敬者は茶を忌み、正月の三が日は茶を飲まないという習俗があった。とくに眼病の人はある一定期間、茶断ちして願えば霊験があらたかであったという。余談だが、落語「心眼」に、目の不自由な亭主とその妻が、茅場町の薬師へ願かけに通う姿が語られている。薬師如来もまた、眼病の神として信仰されていた。

### 願かけ・百日咳編

「せきの婆さん」あるいは「石の婆」の名で知られ

た、子供の咳の病に霊験のあった神がいる。木挽町築地にあった稲葉対馬守の中屋敷に祀られていた屋敷神がそれである。老婆の形に作られた石像に、咳病の平癒を祈願すれば、速やかに治ると言われ、豆やあらねなどの炒り物を煎茶とともに供えした。せきの婆が江戸で流行神になったのは、悪性の風邪が流行った年である。風邪が流行ると、恐ろしい顔つきをした老婆が誰それの家に入っていき、不運にもその老婆を見てしまった者は、せきの婆さんを詣でれば平癒したという迷信があった。婆像に対するこのような信仰は、古くからある姥神信仰（池のほとりに姥が住み、子供を守護するというもの）を素地に成り立ったものである。

とところで、春海が訪れた弘福寺の咳除け爺婆の

石像は、この稲葉対馬守の屋敷から引き移されたもので、もともとは婆像だけでなく爺像も屋敷に祀られていたが、咳病に効くとされていたのは婆像で、一方の爺像は口中の病に効くとされていった。ちなみに、現在も墨田区弘福寺にはこの咳除け爺婆があり、受験シーズンや風邪の流行る時期になると、手を合わせに訪れる人が多いとさうだ。

### 願かけ・疱瘡編

今でこそ恐れる病ではないが、当時は大変な難病であった疱瘡。疱瘡をもたらす悪神が赤い色を嫌うことから、赤摺り絵（疱瘡絵）を疱瘡除けのアイテムとしていたことは有名であるが、ここでは両国橋が願かけスポットとして紹介されている。橋の真ん中に立ち、「錐大明神」と念じ、錐を二本ずつ川に流しながら疱瘡平癒の願かけをした。願解きには再び三

本

本の錐を川に流した。なお、祈願成就までは鯛やひじき、ごまめ、たたみ鯛を断つことが課せられている。

また、浅草寺の二体の仁王尊のうち、阿形像（右側）の股を子供にくぐらせると、疱瘡が軽く済んだという。これを聞きつけた人が遠方からも訪れたため、平常時は錠をかけて仁王像へ近づくことを禁じたとある。流行神らしい熱狂ぶりがよく表れた事例と言えよう。

このほか、腰痛や痔、瘡、イボやタコの除去に関する願かけも見え、江戸の人々の求めた現世利益がいかに豊富で、また、身近な問題であったかが知られるというものだ。弘福寺の咳除け爺婆のほかにも、ここに記した流行神が今もこの東京に残っている。「願懸重宝記」を片手に、かつての名所を楽しむものいいかもしれない。

## ◆紅ミュージアム年間スケジュール

	イベント		休館日
2012年4月			2(月)、9(月)、16(月)、23(月)
5月	20(日)	第13回「江戸の化粧再現講座」～基本編～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員15名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	1(火)振替、7(月)、14(月)、 21(月)、28(月)
6月	17(日)	「和の結び 水引講座」14:00～16:00 講師:田村京淑氏(東京水引芸術学院 学院長) 定員10名・参加費2,000円(教材費込み) (2012年3月に「折形講座」を受講された方、または着物で 受講される方は500円割引。ただし、割引の併用は不可)	4(月)、11(月)、18(月)、25(月)
7月			2(月)、9(月)、17(火)振替、23(月)、30(月)
8月	7(火)	夏休み特別講座 「夏休みこども自由研究 紅ってなあに」 ①10:30～12:00 ②15:00～16:30 講師:当館学芸員 定員10名(親子2人1組で5組)・参加費無料	6(月)、13(月)、20(月)、27(月)
9月			3(月)、10(月)、18(火)振替、24(月)、 28(金)～展示替えのため
10月	【予定】6(土)～	企画展・(仮)「D-デザインの真骨頂、江戸にあり」開催	～5(金)展示替えのため 9(火)振替、15(月)、22(月)、29(月)
11月	【予定】～25(日)	企画展終了(17:00閉館)	5(月)、12(月)、19(月)、 26(月)～30(金)展示替えのため
12月			3(月)、10(月)、17(月)、25(火)振替、 28(金)～31(月)年末のため
2013年1月	20(日)	第14回「江戸の化粧再現講座」 ～江戸のアンチエイジングと白粉化粧テクニック編～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員15名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	1(火・祝)～4(金)年始のため 7(月)、15(火)振替、21(月)、28(月)
2月	17(日)	「粋ですてきな江戸しぐさ」(仮) 14:00～15:30 講師:郷晶代氏(NPO法人江戸しぐさ会員) 定員15名・参加費無料	4(月)、12(火)振替、18(月)、25(月)
3月	【予定】下旬～	「春季特別展」開催	4(月)、11(月)、18(月)、25(月)

\*都合により、内容の変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

## Information

## かわら版

### 講座のご案内

#### ■「折形～江戸の優美なこころ・祝いの包み～」

折形(おりかた)とは、600年以上の歴史を持つ飾り物や贈り物を和紙で包む礼法。贈り先の相手へ「心」をこめる、日本の美しい包みの文化として今日まで伝えられてきました。今回は、春の卒業・入学・門出の時期にちなんで、すぐに使える「お祝いさかづき包み」「立鶴のお祝い包み」とそれらの「内包み」を、解説と実習を交えながら学びます。

講師:有馬 霞水氏(東横学園女子短期大学 名誉教授)

2012年3月17日(土)14:00～16:00

■定員:8名 ■参加費:1,000円

※ご予約は紅ミュージアム(03-5467-3735)まで。

### 期間限定商品のご案内

伊勢半本店では、3月31日(土)まで小町紅『手毬』の期間限定柄2種を販売いたします。春らしいデザインの「桃香」と「唐花」は、雛祭りや卒業、入学、就職など大切な方へのお祝いの贈り物に最適です。



Since 1825  
伊勢半本店 紅ミュージアム

●開館時間/11:00～19:00 ●休館日/毎週月曜日  
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL&FAX:03-5467-3735  
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>